

## 令和3年度美唄市農協地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

JAびばい地域が将来に亘り米主産地として生き残るためには、水張り面積を確保することはもとより、高品質米の生産、需要に見合った用途別の生産・販売の強化に取り組み、消費者・実需者ニーズに即した売れる米づくりを一層推進することが重要となる。

また、国内自給率の向上に資する麦・大豆の本作化に向け、麦・豆類になたね・てん菜等を加え、地力増進作物の導入による有機物の補給や計画的なローテーションを行うことにより、収量・品質の向上を図ると共に、水張り面積を確保すべく新規需要米となる飼料用米の作付を押し進め、振興作物である花き・トマト・アスパラガス・玉葱・ハスカップ・軟白長葱・メロン・南瓜・ズッキーニ・イチゴ・生姜・スイートコーン・加工トマトについては、地域性や個々の労働力などを十分考慮し、作付の拡大を図り産地確立と経営改革に努めなければならない。また、農地保有合理化事業及び農地中間管理事業を活用し担い手等への効率的な農地利用が必要である。

### 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農産物の需給動向を注視し消費者ニーズを踏まえた産地形成を促すことで、地域ブランドを柱とした販売強化と共に地域の担い手育成が図られる。農業者の所得向上や水田農業の発展を図るため、水田をフル活用しながら多様なニーズに対応した競争力のある農産物の計画的かつ安定的な生産・供給が可能な産地作りを行い、より収益性の高い水田農業経営への転換を計画的に行う。

そのためには、北海道が策定した「水田農業高収益化推進計画」に則り、生産基盤の強化のための排水対策を進めつつ、主食用米と比較して面積当たりの所得率が高い野菜や時間当たりの所得率が高い子実用とうもろこし等、営農形態に合わせた作付けの提案を行う。

高収益作物の導入の際には、消費者ニーズに応じた高品質野菜の選定と安定生産技術の導入による産地ブランド力の向上を目指し、作物特性を見極めた適地適作の推進と栽培技術の改善、更にはスマート農業等の普及拡大により省力・低コスト生産技術の導入を行って経営の安定化を図る。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水稻（水張り）を含めた輪作体系を維持しつつ地域の田園機能を活かした農業経営を行いますが、水田の利用状況点検の結果から地域の輪作ローテーション以外で水稻（水張り）を組み入れない作付体系が数年以上定着したことで畑地化を行う場合、もしくは、需給動向の実情に応じて畑作物の本作化や計画的な農地の集積・集約化が求められて畑地化を行う場合には、「人・農地プラン」により描かれた地域の将来像や担い手の農業経営改善計画など効率的な土地利用に配慮する。また、点検結果を踏まえ畑地化支援を活用した際には、各関係機関との連携を通じた支援を行い、輪作体系の安定化と高収益作物の定着化が図られるよう地域の営農指導員による指導も行う。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

需要の減少による産地間競争が激化する厳しい環境の中、生産履歴を明確にした「安全・安心」な米の供給はもとより、商品性の高い良食味米の安定生産に向け作土を乾かし、透排水性の向上を図る土づくりを積極的に推進する。

また、「売れる米づくり」を基本に、様々なニーズに応えるべく生産構造を見直し、また乾田直播栽培技術等による低コスト生産技術の推進により、消費者重視・市場重視の生産体制の構築を図る。

販売対策としては、良食味品種の市場拡大を図るとともに直播適応品種の市場評価を高め、雪零温貯蔵による保管の差別化・大型均質ロットの調製等により産地指定率の向上に努め、美唄産の名声を高める。また、グリーン農業・環境保全型農業による特別栽培米等は付加価値商品と位置づけ、ニッチ市場に向けての販売拡大を図る。

### (2) 非主食用米

水田の多面的機能を活かし、加工用米・新規需要米への取組を実践かつ、水田利用による輪作体系の構築を図り、転作小麦・大豆過作による連作障害の回避や基盤整備後の主食用米生産対策を行い、需要に応じた生産体制の構築を図る。

#### ア 飼料用米

国からの産地交付金を活用した多収性専用品種の導入推進及び団地化の推進を図り令和3年には、地域の水田面積の1割以上の導入を目指す。

#### イ 米粉用米

地域の必需者との契約に基づき、栽培面積を確保する。

#### ウ 新市場開拓用米

北海道米の新たな需要を確保するという観点から作付面積の確保を図り、需要に即した品種の誘導を図る。

#### エ 加工用米

基盤整備事業により耕作面積が減少する中、大豆・麦の輪作体系が大きく崩れる事を防ぎつつ水張り面積を維持すべく需要に即した品種の誘導を図る。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

転作作物の大宗を占める麦・大豆については、品質と収量の向上が不可欠なことから、休閑・後作緑肥の導入等による有機物補給、なたね・てん菜・子実用トウモロコシを加えた計画的なローテーションの実施による連作障害回避、排水・保水対策等の土づくりの定着を図り、空知農業改良普及センターと連携した技術指導による適正管理により生産性の向上に努める。

また、需要の高い春まき小麦の生産拡大と増収量・良品質生産に向け、初冬播き栽培技術の定着を図り需要に応じた生産と輪作体系の確立を図る。

輪作体系構築の基幹となる大豆の定着を図るため、安定確収、低コスト・省力的栽培技術を確立するとともに需要・風土条件に添った品種選定を行う。

#### (4) そば、なたね

「なたね」については輪作作物と位置づけ実需者との契約により拡大を図り、「そば」についても地域の必需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

#### (5) 高収益作物(園芸作物等)

JAの振興作物である花き・トマト・アスパラガス・玉葱・ハスカップ・軟白長葱・メロン・南瓜・ズッキーニ・イチゴ・生姜・スイートコーン・加エトマトについては、生産推進と栽培技術の構築から一定ロットを確保、販売力の強化を図り、個々の所得の向上と農業収入の位置づけの中で「補完」から「基幹」への経営改革を図る。

また、交付金に依存しない、いち早い経営改革・確立の観点から、美唄の特産品であるアスパラ・生姜・スイートコーン・ハスカップを重点作物として位置付けて推進する。

#### (6) 地力増進作物

間作・後作緑肥の導入による有機物の補給や、計画的なローテーションの実施により連作障害の回避や生産向上ができる土づくりを目指す。

#### (7) 耕畜連携

水稲作付面積を確保しつつ、耕種農家と畜産農家における地域内連携を推進するため、飼料用米(わら専用稲含む)作付及びわら利用による耕畜連携の取組を支援する。

#### (8) 二毛作

水田の有効活用を目的に、麦・大豆との輪作体系に組み入れ連作障害を回避するとともに、農家所得の向上を目指す。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,731.31	1,584.51	1,758.00
備蓄米	18.20	18.05	18.00
飼料用米	195.64	390.68	315.00
米粉用米	0.00	0.00	1.00
新市場開拓用米	12.65	12.65	13.00
WCS用稲	1.60	0.00	8.00
加工用米	209.75	200.43	160.00
麦	1,312.79	1,311.56	1,271.00
大豆	976.34	922.64	1,086.00
飼料作物	6.55	6.46	7.00
・子実用とうもろこし	3.19	3.10	4.00
そば	116.20	119.15	117.00
なたね	216.15	210.73	238.00
高収益作物	60.66	54.70	68.97
・野菜	45.82	40.32	50.67
・花卉・花木	13.75	13.38	11.00
・果樹	0.30	0.24	0.30
・その他高収益作物	0.79	0.76	7.00
その他	401.30	392.15	462.00
・てん菜	8.64	21.15	9.00
・地力増進作物	308.64	317.72	383.00
畑地化	0.00	0.00	0.00

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度(実績)	目標値
1	麦(大麦、はだか麦含) 大豆(黒大豆含む)	麦・大豆生産性向上推進加算	作付面積 製品収量	(令和2年度)麦:1,312.79ha (令和2年度)大豆:976.34ha (令和2年度)麦:480kg/10a (令和2年度)大豆:246kg/10a	(令和5年度)麦:1,271.00ha (令和5年度)大豆:1,086.00ha (令和5年度)麦:460kg/10a (令和5年度)大豆:265kg/10a
2	なたね 飼料用デントコーン てん菜	輪作体系助成	作付面積 取組率	(令和2年度)197.87ha (令和2年度)87%	(令和3年度)234.98ha (令和3年度)93%
3	そば	そば生産性向上加算	作付面積 製品収量	(令和2年度)116.20ha (令和2年度)49kg/10a	(令和5年度)117.00ha (令和5年度)50kg/10a
4	飼料用米	わら利用助成 (耕畜連携)	作付面積 取組率	(令和2年度)195.64ha (令和2年度)93%	(令和5年度)315.00ha (令和5年度)95%
5	そば	そば二毛作・二期作助成(二毛作)	作付面積	(令和2年度)79.54ha	(令和5年度)70.00ha
6	小豆、玉葱・いちご・軟白長葱・花き・ズッキーニ・トマト・加工トマト・メロン・南瓜・その他作物※その他作物は別紙のとおり	振興作物推進加算	作付割合 (作付面積)	(令和2年度) 1.13%(38.82ha)	(令和5年度) 1.05%(35.95ha)
7	アスパラガス 生姜 スイートコーン ハスカップ	振興作物重点加算	作付割合 (作付面積)	(令和2年度) 0.64%(21.79ha)	(令和5年度) 0.76%(26.02ha)
8	てん菜	輪作体系重点加算(てん菜)	作付面積 取組面積	(令和2年度)8.64ha (令和2年度)8.64ha	(令和3年度)21.15ha (令和3年度)21.15ha
9	地力増進作物	圃場整備作物安定化助成	作付面積 取組面積	(令和2年度)308.64ha (令和2年度)308.64ha	(令和5年度)383.00ha (令和5年度)383.00ha
10	麦(大麦・はだか麦含む)・大豆・小豆・飼料用デントコーン・そば・なたね・てん菜	土づくりによる収益力向上対策助成	作付面積 取組面積 製品収量 (代表作物:麦)	(令和2年度)2,634.10ha (令和2年度)27.38ha (令和2年度)480kg/10a	(令和3年度)2,589.09ha (令和3年度)62.00ha (令和3年度)500kg/10a
11	なたね・てん菜・生姜・スイートコーン・ハスカップ・玉葱・花き・ズッキーニ・トマト・加工トマト	振興作物地力増進推進加算	作付面積 製品収量 (代表作物:なたね)	(令和2年度)255.05ha (令和2年度)254kg/10a	(令和4年度)285.00ha (令和4年度)380kg/10a
12	そば・なたね	そば・なたね基幹作付助成	作付面積	(令和2年度)332.35ha	(令和5年度)355.00ha
13	新市場開拓用米	新市場開拓用米作付助成	作付面積	(令和2年度)12.65ha	(令和5年度)13.00ha
14	飼料用米・米粉用米	複数年契約加算	複数年契約取組面積・数量 作付面積	(令和2年度)飼料用米: 182.75ha・1,240.68t (令和2年度)米粉用米: 0.00ha・0.00t (令和2年度)飼料用米: 195.64ha・1,314.88t (令和2年度)米粉用米: 0.00ha・0.00t	(令和4年度)飼料用米: 215ha・1,204t (令和4年度)米粉用米: 1.4ha・7.84t (令和4年度)飼料用米: 215ha・1,204t (令和4年度)米粉用米: 1.4ha・7.84t

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

## 7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

○美唄市農協地域農業再生協議会 会員名簿

2021. 4. 26 現在

所属	役職	協議会役職
美唄市	経済部長	
美唄市農業委員会	会長	監 事
美唄市農民協議会	委員長	監 事
北海道中央農業共済組合	地区代表理事	
北海土地改良区	理事長	
美唄市農業協同組合	代表理事組合長	会 長
美唄市農協事業推進委員会	会長	副会長
美唄市農協青年部	部長	
農地利用集積円滑化団体（美唄市）	代表	
美唄市耕作放棄地対策協議会	会長	
※オブザーバー		
北海道農政事務所札幌地域拠点（札幌支局）	総括農政推進官	
空知農業改良普及センター	次長	

○協議会事務局

美唄市農協営農部営農推進課	課長	事務局長
美唄市農協営農部営農推進課	係長	